2017年度事業活動報告書

（2017年4月1日～2018年3月31日）

特定非営利活動法人iCareほっかいどう

１、特定非営利活動に係る事業

1. 意思伝達装置に係る支援事業
   * 1. 患者支援としては札幌市内79名、札幌市以外36名の患者やご家族からの相談を受けて支援させていただきました。
     2. 日本財団の助成により年度末の活動報告会を実施し、活動報告会報告書を作成しました。活動報告会では東京都立神経病院神経内科医の清水俊夫先生から「ALSにおける栄養障害と栄養療法」という革新的な情報を得て、砂川市立病院神経内科医の山内理香先生からは「今いる場所で、今あるもので。そして、今いる人で。絆を大切に頑張ろう」と背中を強く押されました。参加者は70名を超えました。
     3. 現在４つの大学等の作業療法学科の授業（AAC等）で意思伝達機器に関する講義を担当しています。また学生の実習を受け入れて、スイッチ作成や患者さん訪問などを行い、道内のコミュニケーション支援に関する現状を学んでいただいています。
     4. 道内の病院、保健所などから要請を受けて研修会を実施しました。またALS協会など患者会との連携や養護学校からの依頼を受けて、機器展示やスイッチ作成の勉強会も実施しました。
     5. 北海道日本ハムファイターズリリーフ陣から寄付をいただき、活動を支えていただきました。心から感謝しております。3年間ありがとうございました。
     6. 三角山放送局で毎月第4土曜日に放送されている「ALSのたわごと」（メインパーソナリティ：ALS患者米沢和也、協力：iCareほっかいどう)がまる3年を迎え、「北海道コミュニティ大賞」を受賞しました。リスナーは全国に広がっています。
2. 放課後デイサービス事業

「放課後デイばおばぶ」を開設して2年が経過しました。日本メイスン財団の助成により、トイレの改修、玄関フードの工事、クーラーが設置され環境が整備されるとともに、電子ピアノ、iPad、AED等の備品により日々の活動がいっそう充実してきました。日本財団からは福祉車輌キャラバンを助成いただき、ほぼ完全送迎ができるようになり、それとともに利用児も増えてきました。登録児童は16名で、真駒内養護学校、豊成養護学校、北翔養護学校、手稲養護学校の子どもたちです。スイッチを使ったおもちゃ遊びを通して、活動の柱としている「コミュニケーション」を実現したいと願っています。

1. 情報収集、情報提供及び調査研究事業

　　該当なし

２、その他の事業

　　　該当なし